

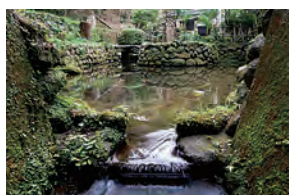
# うきは市の地下水 “うきはの恵水”<sup>めぐみ</sup> について

～毎年8月1日は、水循環基本法で  
「水の日」と定められています～

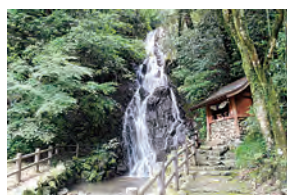


うきは市では、日々の暮らしや産業に必要な水の多くを、良質で豊富な地下水によりまかっています。山に降った雨は森や棚田に保たれ、地下深くしみ込み、平野部に向けて年月をかけて流れて行きます。一方、大河「筑後川」の水は先人の偉業で造られた大石用水、袋野用水により田畑に引かれ、豊かな実りだけでなく良質で豊富な地下水ももたらしてくれています。

毎年8月1日は水循環基本法で「水の日」と定められています。この機会に、うきは市の豊かな地下水“うきはの恵水”<sup>めぐみ</sup>をテーマに、その概況や保全に向けた取組などについてお知らせします。



日本名水百選  
「清水湧水」



全国水源の森百選  
「調音の滝公園一帯」



日本棚田百選  
「つづら棚田」



疎水百選  
「大石用水」

市内には、豊かな自然環境を象徴する4つの「百選」があります。このような地理的環境を「うきはテロワール」と名付け、地理・地勢・気候など自然環境について分かりやすく伝えながら、四季折々のフルーツをはじめとする農産物や特産物などの価値を高める取組を展開しています。

水循環は、生態系ネットワークの重要な基軸でもあります。

市では、自然環境が生み出す生物の多様性の調査として、本年度は現地調査を行いながら、モニタリング活動などにつなげていきます。



市の鳥  
かわせみ



市の花  
彼岸花



市の木  
柿



## ～時代を切り拓いた水にまつわる歴史～

水に恵まれた私たちの暮らしは地理的環境だけではなく、先人の知恵と努力によりもたらされました。

江戸時代初期、浮羽地方では、筑後川がそばにありながら直接水を引くことができず、農民の暮らしは貧しいものでした。

寛文4（1664）年、五人の庄屋が立ち上がり、筑後川から水を引く用水路建設を計画、人々の努力が実を結び、今も大石・長野水道として田畑を潤しています。（現在、長野水神社付近で、用水路の逆サイフォンの移設工事が過去と現代の土木技術を融合させながら進められています。）

さらに、8年後の寛文12（1672）年、大庄屋であった田代重栄、重仍親子が、現在の夜明ダム付近に全長約2kmのトンネル、袋野隧道を完成させました。当時、坑夫は筑後川左岸の岸壁からツルハシなどを使い掘り進み、人力だけで完遂しました。

今年は袋野隧道通水 350周年に当たり、先人の偉業を語り継ぐと記念事業が企画されています。



大石・長野水道（長野水神社下流）



袋野隧道（体験会の様子）

## ～自然豊かなふるさとを未来へ～

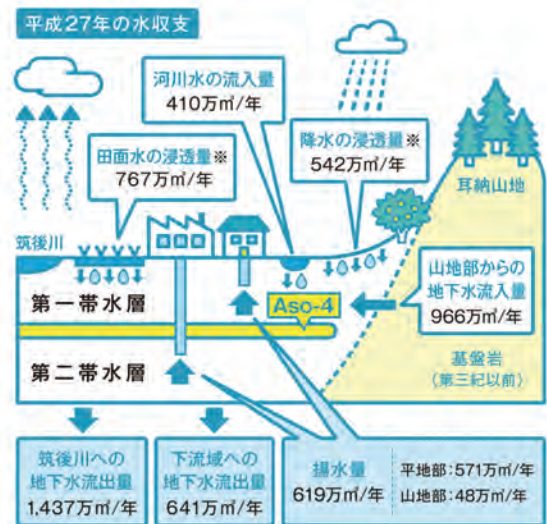
水は、海や河川にとどまっているわけではなく、蒸発し、雲になり、雨や雪になって降下し、川となり海に戻るといのように絶えず循環しています。

市では、森林の保全、山村地域の振興、農地の保全など様々な施策を通じて、水源・水質の保全に取り組んでいます。水環境課においても、下水道をはじめとする污水处理施設の整備を推進しています。

市民のみなさまには、排水口に異物などを流さないことをはじめ、早期接続やお支払いでの口座振替の利用などにご協力をお願いします。



平成 24年九州北部豪雨から10年



※図中の「Aso-4」…約9万年前の阿蘇火山の火砕流による堆積物

このように水に恵まれたうきは市の中でも、地下水の水量や水質に課題を抱えていたり、将来への懸念から上水道による良質な水の安定供給を望まれているご家庭もあります。近年、強雨の発生が増加する一方で、弱い降水も含めた降水の年間日数は減少するなど、気象が極端化していると言われています。地下水の涵養にとって懸念される事象が続く中、市民みなさまのご意見を十分に踏まえながら、上水道整備に向けた取組を進めてまいります。



## ～第35回筑後川フェスティバル in うきは～

筑後川フェスティバルが、今年うきは市で開催されます。筑後川流域の連携構築に向けた行事として、10月に道の駅うきはでのブースイベント、11月にうきは市民センター（小ホール）でのシンポジウムなどが予定されています。

■お問い合わせ 水環境課 ☎:0943-75-4983(直通)